

政治をもっと面白く、わかりやすく。

YouTube 動画を配信中!

# いけたくチャンネル No.20

2018  
Mar.  
発行

大阪府議会議員 **池下 卓**

1975年生まれ、高槻市在住。専門学校講師、税理士事務所を経て、税理士資格取得。大阪府議会議員2期目。都市住宅常任委員会、政務調査役員など歴任。

- ✓ 2025 国際博覧会を大阪・関西へ
- ✓ 阪急南側バス通りの道路整備
- ✓ アレルギー対策すすめる!



友だち追加

## 2025国際博覧会<sup>万博</sup>を大阪・関西へ

現在、インバウンドの増加などによる関西経済の好調が期待される中、さらにこの流れを確実なものにするためにも大阪・関西発展の起爆剤になる大きな「仕掛け」が必要です。

世界の人々が集い、共に考え行動する国際博覧会(万博)は、まさに大阪・関西の魅力やポテンシャルを世界に発信する絶好の機会となります。

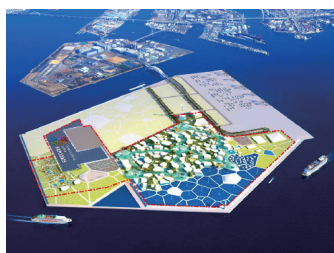
2025 国際博覧会開催の誘致実現に向け、府内における“盛り上がり”に皆様のご協力をお願いいたします。

誘致活動のロゴマーク：世界の人々を笑顔にさせるデザイン

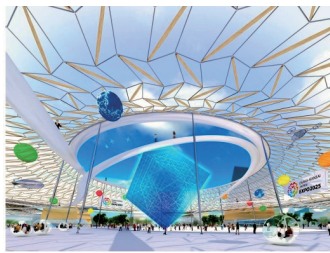


### 大阪万博の会場構想案

**基本テーマ 「いのち輝く未来社会のデザイン」**に沿って、**世界の人々が交流しながらつくる未来社会を会場全体で表現します。**  
大阪市の人口島・夢洲内の155ヘクタールを会場とし「空」と呼ばれる屋根付きの大広場を5カ所設置。来場者の交流や、現実の空間の一部に仮想空間を重ね合わせる拡張現実(AR)などの最新技術を活用したイベントの場にするほか、会場の南には水上エリアを設け、付近にホテルを建設します。



大阪万博会場のイメージ図  
会場中心部にパビリオン等、南側水面に水上施設等、西側緑地にアウトドア施設等をそれぞれ設備。



屋根付きの大広場のイメージ図  
AR(拡張現実)・MR(複合現実)技術を活用した展示やイベントまどを行い、来場者の交流の場とする。



南西側を望む夕景の会場俯瞰図  
淡路島、明石海峡大橋を背景に美しい景観が広がる。

### 2025 大阪万博の開催計画

テーマ	いのち輝く未来社会のデザイン
会場	大阪湾の人口島「夢洲」
期間	2025年5月3日～11月3日 185日間
達成目標	参加者：150の国を含む166の参加機関会場へ来場者：約2800万人 バーチャル来場者：最大80億人

### 開催地の決定までの想定スケジュール

17年9月	正式な立候補申請文書をBIEに提出
11月	BIE総会でプレゼンテーション(2回目)
18年1～3月	BIEが候補地の現地調査(1時間程度)
6月	BIE総会でプレゼンテーション(最終)
11月	BIEが加盟国(※)の投票で開催地決定

※約170カ国

### 他の立候補の国と開催都市

国名(都市名)	テーマ
フランス(パリ)	共有すべき知見、守るべき地球
ロシア(エカテリンブルク)	未来の世代へ、包摂的な技術革新
アゼルバイジャン(バクー)	人間の首都

## 誘致委員会の会員になって応援しよう!

会費は**無料** ▶▶▶ 誘致委員会のホームページから会員登録をお願いします。

EXPO 2025



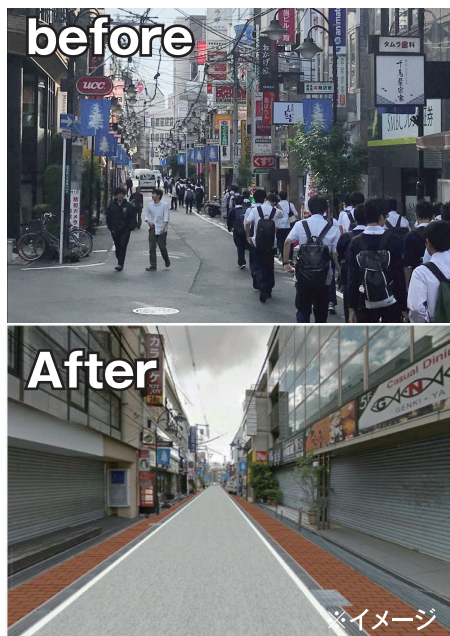
発行元

大阪府議会議員 池下卓事務所 〒569-0077 大阪府高槻市野見町3-3 興喜第二ビル3F  
Tel / 072-670-0410 Mail / info@iketaku.jp

大阪維新の会 One Osaka!

## 阪急南側バス通りの道路整備について

阪急高槻市駅南口から国道171号線に至る約180メートルの一方通行の道路（府道阪急高槻市停車場線）。朝夕の通勤通学の時間にはバスや人が溢れている。この道路は地元の表玄関にあり、地元の方々には京阪バス通りなどと言われている道路になる。平成20年に府道から市道へ引継ぎの覚書が交わされていたものの、財政の問題等により長年道路整備が進んでこなかった。池下は地元商店街の皆さんからご要望を受け、地元商店街、大阪府、高槻市との間に入り調整をすると共に大阪府議会でも議論を交わした。これを受け、歩道のカラー舗装や排水設備の整備をした上で高槻市に移管、平成31年には引き渡しをされることになる。これからも中核都市・高槻にふさわしい街づくりに取り組んでいく。



## アレルギー対策すすめる！

昨夏、池下は街頭活動中に幼い子供を見た。その子は顔から血を流し、服も真っ赤に染まっていた。身体中がかゆくて掻きむしって血を流していたのだ。近くにいた父親らしき人も何もできないでいた。池下は自分の無力さを痛感した。議員はアレルギーに苦しむ一人の子も救えない、けれども仕組みを変えていくことで多くのアレルギーに苦しむ人々を救えるのではないであろうかと。

池下は今期、維新の会府議団にて政策立案を担当する政務調査副会長を拝命している。平成30年度は「大阪府保健医療計画」の改定年度ということもあり、アレルギー対策のための拠点病院を指定すべく大阪府に働きかけた。アレルギーにも多種多様あることから患者はどの専門病院に行けばいいのかわからない。このような現状を変えるため拠点病院を指定し、各地の病院から紹介を受け、専門的な治療を受けてもらおうというものだ。さらに国において「アレルギー対策拠点病院モデル事業」という新規の事業もたちあがるといいう情報を掴み、大阪府がモデル都道府県となるべく要請をしている。

日本国民のうち約半分は何かしらのアレルギー疾患を持っているという時代、できるだけ多くの府民の方々の苦しみを和らげられるよう活動をしていく。



市来 隼 -いちきはやと-

1987年1月11日 高槻生まれ、高槻育ち。三島高校、関西外語大学卒業後、衆議院議員秘書を経て、高槻初のコワーキングスペースの立ち上げやNPOとの人材育成事業などに関わる。現在は、池下卓大阪府議会議員事務所にて従事。地元の津之江北町では、夏祭り振興会会長として神輿文化を継承するために日々奮闘中。また、東日本大震災でのボランティア活動を通じて予備自衛官を志し、定期的な招集訓練に参加している。趣味はサーフィン、タッチフットラグビー。

### 新企画 スタッフのつぶやき①

## 僕たち世代も、もっとまちに関わらなければいけない。

はじめまして、池下卓事務所スタッフの市来隼です。

20歳で初めて選挙に関わってから10年。大学卒業後に衆議院議員秘書として、生まれ育ったまちに関わるようになって、気づいたことがたくさんありました。政治への不満や無関心さ、コミュニティの衰退など、政治の様々な課題を目の当たりにしてきました。

そこに起こった東日本大震災。未曾有の事態には政治が機能しないことを身をもって痛感しました。また、ボランティアで被災地を訪れた際に、互いに協力して運営している避難所と救援物資を奪い合いをしている避難所があることに気づきました。地元の方が、もともと隣近所の顔が見えている関係かどうかの差だと教えてくれました。いざという時に一番頼りになるのは“地域のつながり”ということを強く思うようになりました。

地域のつながりはもちろん、政治もまちづくりもひとりではつくれないものではないです。

ひとりひとりが関わりながらつくるものです。どうなったら良くなるのかを真剣に考え、その実現に向けて、僕たち世代ももっと関わらなければいけないと考えています。

▶Twitterでも情報配信中。お気軽にフォローしてください♪

@hayatoichiki

